

カラーユニバーサルデザイン

どんな色覚の人にも

分かり易い配色やデザインで、

より多くの人に利用しやすい製品や

施設、環境、サービス、情報を

提供するという考え方。

略称をCUDと言います。



「人にやさしい色づかいをすすめる会」は、

2015年に名古屋で創設された

非営利団体で、

CUDを普及させることで

人にやさしい社会づくりを目指しています。

見え方を評価する

スキルを学ぶための勉強会や

講演会、各種セミナーの開催、

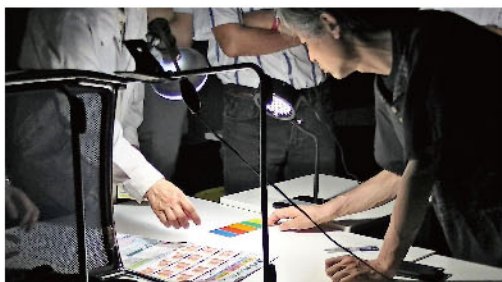
講師派遣などを行なっています。

またCUDの視点で観察する

チェックツアーも実施しています。



名古屋駅バスターミナル CUDチェックツアー



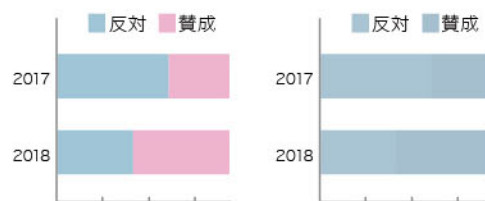
CUD検証準備会

CUDを 意識した 配色例

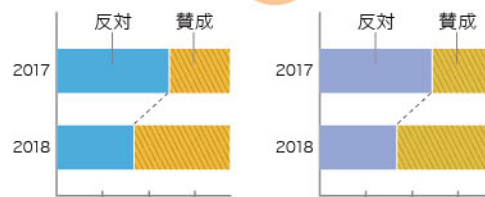
C型色覚

P型色覚 / 強度
(見え方の一例)

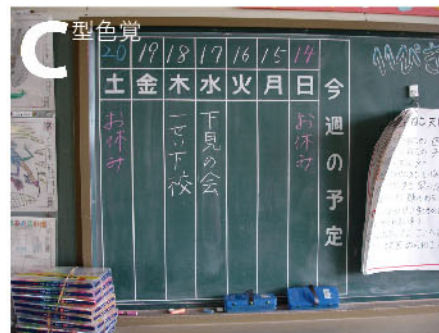
CUD対策前



CUD対策後



配色だけではなくパターンを加えたり、境界を白や黒の線で区別する、さらに凡例をつけずグラフに直接言葉を記入すると見分けやすくなります。



色弱者が 生活の中で 困ることの一例

- 黒背景に赤文字で書かれた看板は、同じ色に見えるため見分けづらい。
- 家電製品の ON (緑) と OFF (赤) の LED ランプが似通って見えるため判別しにくい。
- カレンダーで平日 (黒) と祝祭日 (赤) が同じ色に見えるため祝祭日を平日と間違える。
- 色のみで路線を区別している路線図は、分かりにくい。
- 一灯式の信号機では、赤が点灯しているのか黄が点灯しているのか分からない。

色覚の多様性 主な色覚タイプ

呼称	タイプ	比率 (男性)
一般色覚者	C型	95.0%
色弱者	P型 (強・弱)	1.5%
	D型 (強・弱)	3.5%
	計	5.0%

人の色覚は進化の過程で獲得されたものです。少数派の色弱者は、日本人の男性の20人に1人、女性の500人に1人、日本全体で約320万人いると言われていています。

詳細は、ホームページ <https://cud.nagoya/> 「色覚についての基礎知識」をご覧ください。

色を使った情報の問題点

現代社会では、私たちは実に多くの色を使って情報を伝えています。

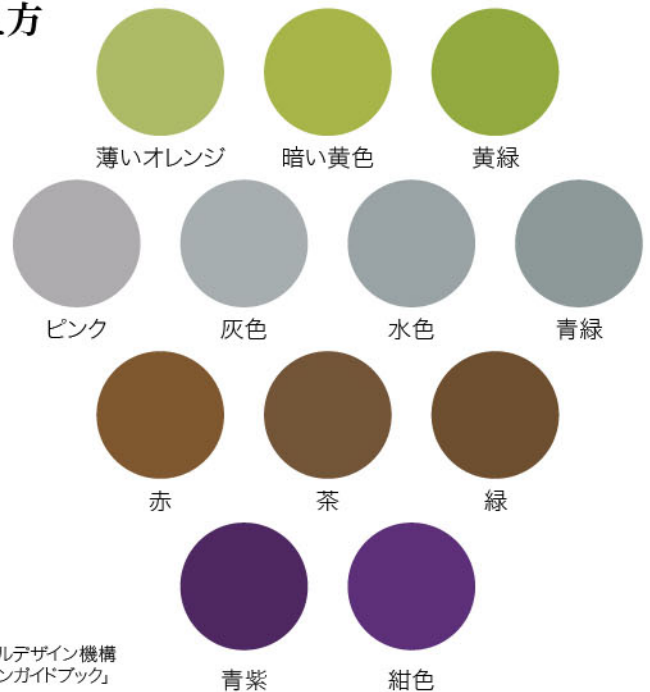
ところが、色の組み合わせによっては、正確に情報が伝わらず間違いや勘違いを起こしてしまうケースがあります。

例えば、危険信号として使用されることの多い「赤」が、人によっては暗く見えて他の色に紛れてしまう場合があります。色を感じとり見分ける力「色覚」は、人によって異なり多様性があるのです。

一般色覚者の見え方



色弱者の色の見え方



出典
 NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構
 「カラーユニバーサルデザインガイドブック」

トピックス

● 2018年2月愛知県が視覚情報を正しく伝えるための指針として「視覚情報のユニバーサルデザインガイドブック」を作成し、色覚の多様性とCUDの実践例などを始め、だれに対しても見やすく分かりやすい情報を提供するために必要な配慮や工夫をまとめました。
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shogai/3456.html>

● 2018年4月20日「JIS 安全色 Z9103:2018」が色覚の多様性に配慮、改正され施行されました。
<http://safetycolor.jp/shokai/>

愛知からすすめるカラーユニバーサルデザイン



NPO
 人にやさしい
 色づかいをすすめる会



ホームページ
<https://cud.nagoya/>
 Facebook
 「人にやさしい色づかいをすすめる会」

会 員 募 集 中

活動に賛同していただける方を募集しています。特に色弱の方が不足しています。色で困らない社会の構築のために、あなたの経験を活かしませんか？

年会費 個人 2,000円 学生 1,000円
 団体・企業 2,000円(一口)以上

申込み・問合せ TEL 090-9183-1049 FAX 052-771-3514
 E-mail info@cud.nagoya

人にやさしい色づかいをすすめる会 代表 富永さかえ